



身近な町の問題や出来事をご紹介します

だん とぴっく



中学生剣士躍進 全国大会団体7位

◀8月12日、近藤市長に報告をした藤原くん（左）と渡辺くん。

7月23日～25日に駒沢オリンピック公園総合運動場で開催された全国中学生フェンシング選手権大会で、島根県代表として出場した市内の中学生2人が活躍し、団体の部で7位となりました。

出場した団体の選手3人の内、藤原大二郎くん（安来一中2年）と、渡辺大成くん（伯太中2年）が安来の生徒。藤原くんは、「くやしい。練習を重ね今度は全国大会で優勝したい」、渡辺くんは「力をつけて県や中国大会で優勝できるよう一歩ずつ頑張る」と雪辱を誓っていました。

一日だけ憧れの「消防士」

子どもたちが消防活動を体験するイベント「一日消防署体験学習」が8月7日、安来市消防本部で開かれました。市内の親子連れ約60人が、放水やはしご車への乗車などを楽しみました。

防火や防災意識を高めてもらおうと、毎年夏休みに開催しています。小学3～6年の子どもたちは、消火用ホースでの放水や、約30メートルの高さのはしご車などを体験。また、防火服の着衣や心肺蘇生法も学ぶなど、災害や救助現場で活躍する消防隊の仕事を学びました。



◀高さ7メートルで行ったロープ渡り。

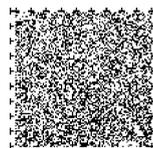


▲かぼちゃを切る参加者。
◀鶏肉のマーナレード焼き、かぼちゃサラダなど、5品で600キロカロリーとヘルシー。

知って!安来のおいしい給食

給食センター“ハッピークック”の調理研修室で8月中の4日間、小学生とその親を対象とした料理教室が開かれました。

催しは、学校給食への理解を深め、子どもたちの健やかな成長などを目的に給食調理師らが毎年開催しており、今回は延べ100人が参加。参加者は地元の夏野菜を豊富に使った5品に挑戦し、煮干しでだしをとったり、野菜を包丁で細かく切ったりと、5品の工程を同時にこなして、親子でクッキングを楽しみました。荒島小1年白根菜々子さんは「家でもつくってみたい」と笑顔で話していました。



国の特別天然記念物の現状変更許可を得て実施しています



2匹のオオサンショウウオに出会えた

夏休み中の子どもたちに、安来のかくれた魅力を体験してもらおうと企画された体験プログラム「やすぎちょっこしなつ休み」。このうち8月10日にオオサンショウウオの観察会が広瀬町西谷で開かれ、市内外から親子連れなど16人が参加しました。

講師は日本オオサンショウウオの会会員の岩田貴之さん（飯島町）。参加者は西谷地区生活改善センターで生態や調査方法について学んだ後、夜の西谷川へ。この日は岩陰などから2匹の個体を発見し調査のため一旦捕獲。専用の測定器などで大きさや特徴を調べました。

お母さんの故郷に帰省中で宮崎県から参加した甲斐美羽さん（小学2年生）は、「初めて見ましたが思っていたより細長かった。触ってみるとツルツルしていました」と話してくれました。

◀この日、発見できたのは体長60センチと71センチの個体。子どもたちは実際に触るなど貴重な体験ができました。

9月3日から8日間、ハーモニータウン汐彩2016住宅祭を開催しました。安来駅から東へ約2km、中海の入り江に面した汐彩団地は平成12年に分譲を開始し、現在総区画229の内46区画を売り出しています。

住宅祭は、市内外の住宅メーカーなど12社が出展。省エネや、断熱・防音に優れた最新のモデル住宅展示6棟のほか、耐震構造や建築工法などをPRするブースが設置され、来場者は各所に設置されたスタンプを押しながら団地内のブースを巡りました。

市では、平成25年4月から汐彩住宅団地の土地価格を3割引き下げたほか、本年度から市内での住宅取得に最大160万円の補助制度を設けたこともあり、家族連れが多く訪れ、環境や住みやすさなど見てまわりました。

住みやすさを体感！汐彩住宅祭



◀家族連れでにぎわう汐彩住宅団地。

伯太川でつかみ取り



◀ニジマスを捕まえる子どもたち

夏休み恒例のかっぱまつりが母里地区の伯太川で8月21日に開催され、親子連れなど約200人が参加しました。豊かなふるさとの自然について知ってもらおうと地元の有志が毎年開催しているもの。

まつりでは、子どもたちが伯太川に入り、生き物を探したり、水質について調べたりして、自然に親しみました。

メインはニジマスとウナギのつかみ取り。伯太川内に設置されたいけすに魚が放されると、参加者はせきを切ったように一斉に川に入り、魚が潜む岩の下に手を伸ばして、大人も子どもも夢中になって探していました。捕まえた魚は炭火焼にしてその場で食べました。子どもたちはふるさとの自然を体感し、満喫した一日となりました。

